



平成30年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成29年9月21日

上場会社名 日本オラクル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4716 URL <http://www.oracle.com/jp/corporate/investor-relations/index.html>
 代表者 (役職名) 代表執行役 (氏名) 金子 忠浩
 チーフリーガルオフィサー 法務室長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役副社長 最高財務責任者(CFO) (氏名) 野坂 茂 TEL 03-6834-6666
 四半期報告書提出予定日 平成29年10月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年5月期第1四半期の業績（平成29年6月1日～平成29年8月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年5月期第1四半期	41,256	6.9	12,288	8.8	12,230	9.7	8,478	8.8
29年5月期第1四半期	38,591	2.7	11,294	1.4	11,151	△0.6	7,795	4.2

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年5月期第1四半期	66.43	66.29
29年5月期第1四半期	61.15	61.02

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年5月期第1四半期	188,748	100,153	52.9	781.40
29年5月期	198,731	105,783	52.9	824.79

(参考) 自己資本 30年5月期第1四半期 99,776百万円 29年5月期 105,221百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年5月期	ー	0.00	ー	114.00	114.00
30年5月期	ー				
30年5月期(予想)		ー	ー	ー	ー

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 次期の配当金は未定です。

3. 平成30年5月期の業績予想（平成29年6月1日～平成30年5月31日）

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高	1株当たり 当期純利益
	%	円
通期	1.0 ～4.0	287.00 ～297.00

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 平成30年5月期の業績予想については、レンジ形式により開示しております。

3. 予想実効税率は31.0%です。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年5月期1Q	127,844,271株	29年5月期	127,728,671株
② 期末自己株式数	30年5月期1Q	154,722株	29年5月期	154,522株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年5月期1Q	127,625,761株	29年5月期1Q	127,491,381株

(注) 当社は、役員報酬BIP信託および株式付与ESOP信託を導入しております。信託が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。また、当該信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P4.「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 業績の概要

当第1四半期累計期間(自平成29年6月1日至平成29年8月31日。以下、「当四半期」)においては、日本国内の経済環境は、金融政策、経済政策により、緩やかな改善基調にありましたが、米国の政策運営の不安定さや地政学リスクの高まりに伴い、経済活動の先行き不透明感が増しております。

また社会、企業活動においては生産年齢人口の減少、グローバル対応、新規事業の開拓などの課題に対し、デジタル技術を活用し問題解決に取り組んでいくことが重要となっております。

このような事業環境のもと、2020年までにNo.1クラウドカンパニーになることを目標とし、顧客企業のクラウド利用を促進するためのアプローチである「Journey to the Cloudの推進」、大型案件を創出するための「エンタープライズ営業の強化」、企業活力の源泉となる「社員エンゲージメントの強化」を経営方針として事業を推進しております。

以上の結果、当四半期の経営成績につきましては、売上高41,256百万円(前年同期比6.9%増)、営業利益12,288百万円(前年同期比8.8%増)、経常利益12,230百万円(前年同期比9.7%増)、四半期純利益8,478百万円(前年同期比8.8%増)となりました。

② 報告セグメント別の状況

[クラウドおよびソフトウェア(*)]

(*) 当第1四半期会計期間より、従来の「新規ライセンスおよびクラウド(SaaS/PaaS/IaaS)」と「アップデート&プロダクト・サポート」を統合し、「クラウドおよびソフトウェア」セグメントに変更いたしました。

売上高は31,999百万円(前年同期比7.6%増)となりました。内訳につきましては、新規ライセンスの売上高は7,879百万円(前年同期比2.6%増)、アップデート&プロダクト・サポートの売上高は21,396百万円(前年同期比5.4%増)、クラウド(SaaS/PaaS/IaaS)の売上高は2,723百万円(前年同期比53.9%増)となりました。

当セグメントは企業等のIT基盤に利用される、データベース管理ソフトウェア、各種ミドルウェア、ERP等の業務アプリケーションソフトウェアの新規ライセンスを販売する「新規ライセンス」とライセンスを利用されているお客様に更新版等のアップデートや技術サポートを提供する「アップデート&プロダクト・サポート」、これらのソフトウェアやハードウェアのリソースを、インターネットを通じてサービス提供する「クラウド(SaaS/PaaS/IaaS)」から構成されます。

(注1) SaaS (Software as a Service) : 財務会計や給与・人事管理などのソフトウェアの必要な機能を必要な分だけ、インターネットを経由して提供するサービス。

(注2) PaaS (Platform as a Service) : ITシステムを構築、稼働させるための基盤となるデータベース管理ソフトウェアや、異なるソフトウェア間を円滑に連携させる中間層のソフトウェアを、インターネットを経由して提供するサービス。

(注3) IaaS (Infrastructure as a Service) : ITシステムを構築、稼働させるための基盤(サーバーマシンやストレージなどのハードウェアやネットワークなど)そのものを、インターネットを経由して提供するサービス。

＜クラウド(SaaS/PaaS/IaaS)＞

SaaSでは、引き続き競争力強化、効率化を目的としたグローバルの間接購買や統合会計ソリューションを提供するERP・EPMクラウドの需要が増加しております。

PaaS/IaaSでは、製造業のIoTソリューション向けに、デバイス・システム連携やデータ処理を支援する当社のPaaS製品や、当社のクラウド環境をお客様のデータセンター内に設置し、お客様のデータセンター内からオラクルのパブリックIaaSおよびPaaSを提供する「Oracle Cloud at Customer」への引き合いが増加しております。

＜新規ライセンス＞

当社の新規ライセンス製品は、長年、高度なセキュリティ、可用性と高速処理性能が求められるミッションクリティカル領域で広く採用されております。

現在、次の成長分野として注力しているオラクルクラウドは、この新規ライセンスと同じ設計思想、同じ技術で構築しており、新規ライセンス製品で構築したオンプレミス(*)システムとオラクルクラウドとの連携、双方向の移行を可能としていることを、当社の強みとしております。

この当社の強みを背景に、第1四半期では金融、公共の分野で、セキュリティ強化、ITシステムによる競争力強化・顧客接点強化を戦略として推進されているお客様から大型案件を受注いたしました。

(*) オンプレミス: ITシステムを自社の保有物として構築・運用する形態

〈アップデート&プロダクト・サポート〉

導入製品や利用環境に応じたプロアクティブ（事前対処的）、かつプリベンティブ（予防的）なサポートを提供する「My Oracle Support」等、製品を利用されているお客様へのサポートの価値訴求や、パートナー企業様との協業を推進した結果、新規のサポート契約、および既存のサポート契約の更新が堅調に推移いたしました。

[ハードウェア・システムズ]

売上高は3,946百万円（前年同期比5.0%減）となりました。

内訳につきましては、ハードウェア・システムズ・プロダクトの売上高は1,400百万円（前年同期比13.9%減）、ハードウェア・システムズ・サポートの売上高は2,545百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

当セグメントは、サーバー、ストレージ、エンジニアド・システム、ネットワーク機器等のハードウェアの販売およびそれらのオペレーティングシステム（OS）や関連ソフトウェアを提供する「ハードウェア・システムズ・プロダクト」、ハードウェア製品の技術サポート、修理、メンテナンスの提供およびOS等関連ソフトウェアの更新版等の提供を行う「ハードウェア・システムズ・サポート」から構成されます。

[サービス]

売上高は5,310百万円（前年同期比13.2%増）となりました。

当セグメントは、当社製品の導入支援を行う「コンサルティング・サービス」、予防保守サービスやお客様のIT環境の包括的な運用管理サービスを提供する「アドバンストカスタマーサポートサービス」、技術者や利用者向けの研修事業や技術資格の認定事業を提供する「エデュケーション・サービス」から構成されております。

コンサルティング・サービスにおいて、プロジェクト案件が順調に進捗したほか、またエデュケーション・サービスでは、クラウドアプリケーション開発向けのJavaへの研修需要が増加しております。

<報告セグメント別売上高の状況>

区分	平成29年5月期 第1四半期		平成30年5月期 第1四半期			平成29年5月期	
	金額	構成比	金額	構成比	対前年 同期比	金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
クラウド (SaaS/PaaS/IaaS)	1,769	4.6	2,723	6.6	53.9	9,159	5.3
新規ライセンス	7,677	19.9	7,879	19.1	2.6	43,386	25.1
アップデート&プロダクト・サポート	20,295	52.6	21,396	51.9	5.4	82,727	47.8
クラウドおよびソフトウェア	29,742	77.1	31,999	77.6	7.6	135,273	78.1
ハードウェア・システムズ・プロダクト	1,626	4.2	1,400	3.4	△13.9	9,375	5.4
ハードウェア・システムズ・サポート	2,528	6.6	2,545	6.2	0.7	10,176	5.9
ハードウェア・システムズ	4,155	10.8	3,946	9.6	△5.0	19,551	11.3
サービス	4,693	12.2	5,310	12.9	13.2	18,365	10.6
合計	38,591	100.0	41,256	100.0	6.9	173,190	100.0

(注) 金額は単位未満を切り捨て、構成比ならびに対前年同期比は単位未満を四捨五入で表示しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における総資産は188,748百万円(前事業年度末比9,983百万円減)となりました。流動資産は147,742百万円(前事業年度末比9,878百万円減)となりました。

負債は88,595百万円(前事業年度末比4,353百万円減)、純資産は100,153百万円(前事業年度末比5,629百万円減)となりました。この結果、自己資本比率は52.9%(前事業年度末 同52.9%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月26日に発表いたしました平成30年5月期の業績予想より変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	43,025	131,289
売掛金	19,629	11,812
短期貸付金	90,300	—
その他	4,668	4,643
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	157,621	147,742
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	11,384	11,185
土地	26,057	26,057
その他(純額)	2,648	2,882
有形固定資産合計	40,089	40,124
無形固定資産	6	5
投資その他の資産		
その他	1,014	876
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	1,014	876
固定資産合計	41,110	41,006
資産合計	198,731	188,748
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,028	10,046
未払金	5,109	3,431
未払法人税等	8,274	4,125
前受金	62,594	66,166
賞与引当金	2,035	895
その他の引当金	442	452
その他	2,454	3,470
流動負債合計	92,940	88,587
固定負債		
その他	7	7
固定負債合計	7	7
負債合計	92,948	88,595
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,755	24,074
資本剰余金	7,106	7,424
利益剰余金	75,258	69,177
自己株式	△898	△900
株主資本合計	105,221	99,776
新株予約権	561	376
純資産合計	105,783	100,153
負債純資産合計	198,731	188,748

(2) 四半期損益計算書

(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年8月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年6月1日 至平成29年8月31日)
売上高	38,591	41,256
売上原価	19,519	21,668
売上総利益	19,071	19,588
販売費及び一般管理費	7,777	7,299
営業利益	11,294	12,288
営業外収益		
受取利息	5	6
その他	2	4
営業外収益合計	8	10
営業外費用		
為替差損	151	67
その他	0	0
営業外費用合計	151	68
経常利益	11,151	12,230
特別利益		
新株予約権戻入益	161	82
特別利益合計	161	82
税引前四半期純利益	11,313	12,313
法人税等	3,517	3,834
四半期純利益	7,795	8,478

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自平成28年6月1日至平成28年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	クラウドおよび ソフトウェア	ハードウェア・ システムズ	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上 高	29,742	4,155	4,693	38,591	—	38,591
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—	—
計	29,742	4,155	4,693	38,591	—	38,591
セグメント利益	10,855	187	1,236	12,279	△984	11,294

(注) 1. セグメント利益の調整額984百万円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自平成29年6月1日至平成29年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	クラウドおよび ソフトウェア	ハードウェア・ システムズ	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上 高	31,999	3,946	5,310	41,256	—	41,256
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	31,999	3,946	5,310	41,256	—	41,256
セグメント利益	11,780	174	1,362	13,317	△1,028	12,288

(注) 1. セグメント利益の調整額1,028百万円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期会計期間より、従来の「新規ライセンスおよびクラウド (SaaS/PaaS/IaaS)」と「アップデート&プロダクト・サポート」を統合し、「クラウドおよびソフトウェア」セグメントに変更しております。これは、当該旧セグメント間の相互関連性や補完性が強くなり、これらのサービス提供が一体となって当社の事業を支えるようになってきていること、当社の事業展開、経営資源の配分、経営管理体制の実態等の観点から報告セグメントについて再考した結果であります。

なお、前第1四半期会計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法および名称により作成したものを記載しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。